

平成 27 年度事業報告

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

当協会は、平成 27 年 5 月 14 日(木)開催の第 3 回定時総会において、施工管理事業、品質管理事業、広報事業を骨格とする平成 27 年度の事業計画と約 7,200 万円(断熱特別会計を含む)の予算を決定し、これに基づき以下の事業を実施したので報告する。

平成 27 年度は、金属屋根・外壁に関する入門図書『金属屋根・外壁ハンドブック』(仮称)の編集作業、木造建築物における折板接合部の確認試験、平板ぶき屋根の耐火構造における垂木の耐火被覆に関する検討、新たな屋根 30 分耐火構造認定取得に向けた準備などを進めたほか、金属屋根・外壁に関連する各種技術情報を積極的に公開した。

1. 組織運営

(1) 会議

事業計画の円滑な執行を図るため、次の会議並びに委員会を運営した。

表 1 会議・委員会

会議・委員会	所管事項
正副会長会議	事業及び予算執行に関する事項
審査委員会	技術審査の問題作成、可否の判定に関する事項
技術委員会	技術の向上及び技術サービスに関する事項
広報委員会	広報及び機関誌・ホームページに関する事項

表 2 会議・委員会開催経過

総会	第 3 回:5 月 14 日
理事會	第 7 回:5 月 14 日 第 8 回:1 月 20 日
賀詞交歓會	1 月 20 日
正副会長會議	4 月 23 日、7 月 9 日、10 月 22 日、12 月 15 日、2 月 28 日～29 日
審査委員会	1 月 25 日
技術委員会	4 月 15 日、5 月 18 日、6 月 24 日、7 月 13 日、8 月 18 日、9 月 15 日、10 月 1 日～2 日、10 月 19 日、11 月 30 日、12 月 21 日、1 月 25 日、3 月 1 日、3 月 29 日
広報委員会	4 月 7 日、5 月 12 日、6 月 12 日、7 月 2 日、9 月 4 日、10 月 9 日、11 月 6 日 12 月 8 日、1 月 6 日、2 月 5 日、3 月 8 日

(2) 会員の異動状況

平成 28 年 3 月末における会員の異動状況は次の通りである。

表 3 会員移動状況

会員区分	期 首	増加数	減少数	3 月末
正 会 員	271	1	5	267
特別正会員	106	1	1	106
特 別 会 員	10			10
賛 助 会 員	30	2		32
合 計	417	4	6	415

(3) 役員補選

第 3 回定時総会で役員補選を行った。理事・監事の退任・新任は表 4 の通り。

表 4 退任・新任 理事・監事

	退 任		新 任	
理事	河 崎 東美彦	(株)協和	田 中 徳 治	(株)協和
	貞 利 幸 孝	大島応用(株)	三 村 雅 信	大島応用(株)
	丹 下 勇	北海鋼機(株)	井 澤 純 司	北海鋼機(株)
	永 井 峻	日本鐵板(株)	森 谷 英 之	日本鐵板(株)
	西 村 一 実	日鉄住金鋼板(株)	小 川 裕	日鉄住金鋼板(株)
	斎 藤 文 隆	(有)斎藤板金製作所		
	鈴 木 章 夫	(有)鈴木板金工業所		

2. 安全対策及び保険事業

(1) 安全対策

機関誌に以下の安全関連記事を掲載した。

*7・8 月号:熱中症対策

*7・8 月号:足場からの墜落防止ための措置を強化します

*9 月号:労働安全衛生規則の一部を改正する省令の概要(足場からの墜落防止対策の強化関係)

*12 月号:墜落・転落災害防止対策の徹底について

* 3 月号:職場における熱中症予防対策の重点的な実施について

(2) 保険事業

労働災害保険制度(正会員自動加入:昭和 49 年度より実施)は、正会員に対する安全対策の一環として導入したものであるが、平成 27 年度の給付状況は次の通りである。なお、本制度は 27 年度で終了した。

表 5 給付状況

区 分	給付を行ったもの		給付手続中のもの	
	件 数	給付金額	件 数	給付金額
入 院	-	-	-	-
後遺障害	-	-	-	-
死 亡	-	-	-	-
合 計	-	-	-	-

3. 調査研究事業

(1) 社会保険加入促進に関する周知活動の実施

社会保険の加入促進に向け、6月号の機関誌において関係記事を掲載し、周知活動に努めた。

(2) 若年労働者育成に関する調査等

① 「ものづくり大学」への講師派遣

「ものづくり大学」からの要請により「鋼構造実習」の非常勤講師を派遣した。講師は工藤技術主幹が担当し、折板屋根に関する内容を中心に90分講義・12単位の授業を担当した。また、授業の一環として三晃金属工業・深谷製作所の視察を行った。

② 中央職業能力開発協会への中央技能検定委員の派遣

建築板金(内外装板金作業)の中央技能検定員として宮腰技術委員長、工藤技術主幹を派遣した。

(3) 内外装板金・外国人研修生制度への対応

厚生労働省における外国人研修生の受け入れの前提となる「公的技能評価制度」の創設について協力した。今年度は内外装板金作業の技能検定基礎級の試験問題等の検討並びに実技試験の作成・試行運用に専門調査員・技能検定員を派遣した。28年度中の実施に向け作業が進められている。

(4) 海外情勢の調査

ドイツ・シュトゥットガルトで開催された『The ROOF+TIMBER International』の視察を中心とする視察団を派遣した。期間は1月31日～2月7日。参加者は11名。

(5) 香港建築金属構造協会・澳門(マカオ)金属構造協会との技術交流

香港建築金属構造協会・澳門金属構造協会からの要請で以下の技術交流を行った。

10月30日 11:00～16:00 上記2団体が事務局を訪問

彭耀光・秘書長、劉光輝・理事、劉加琴・秘書×宮腰委員長、風間委員、濱野、工藤

日本の屋根市場、香港・マカオでの屋根被害、作業員の育成、ステンレス屋根等で意見交換。

11月23日～25日 第3回中国・香港・台湾・澳門4地区鋼構造カンファレンス&グリーン建築セミナー

24日・日本の金属屋根に関する講演、技術交流に関する覚書調印

25日・研究実験施設の見学(工藤技術主幹)

本年3月の来日に際し、建材試験センター等の視察先のあっせんと意見交換を行った。

(6) 金属屋根等に関する統計調査の実施

平成26年度における金属屋根、粘土瓦、厚形スレート、化粧スレート、波形スレートの出荷量、並びに金

属屋根・外壁素材の出荷量に関する調査を実施し、結果はホームページで公開する。2000年～2014年の概要は以下の通り。

表6 各種屋根材の出荷動向・面積比較(単位:千㎡)

年度	金属	セメント瓦	波形スレート	粘土瓦	化粧スレート	合計	金属比率
2000	72,603	9,713	10,200	76,218	31,234	199,968	36.3%
2001	71,261	8,317	8,230	72,046	28,161	188,015	37.9%
2002	66,920	7,562	7,088	69,844	24,110	175,524	38.1%
2003	67,125	7,530	6,718	68,280	25,748	175,401	38.3%
2004	70,142	4,999	7,332	58,892	22,183	163,548	42.9%
2005	82,881	7,149	5,646	57,353	22,711	175,740	47.2%
2006	83,573	6,395	4,698	55,521	20,465	170,652	49.0%
2007	69,836	4,136	3,890	44,372	18,788	141,022	49.5%
2008	54,661	1,941	3,061	38,957	17,078	115,698	47.2%
2009	44,687	2,148	2,176	38,186	15,525	102,722	43.5%
2010	48,663	2,137	2,281	32,588	16,202	101,871	47.8%
2011	51,774	956	2,252	34,123	16,713	105,818	48.9%
2012	55,135	1,125	2,136	33,572	16,975	108,943	50.6%
2013	57,918	1,125	1,716	31,197	17,582	115,543	52.9%
2014	64,009	未集計	1,586	未集計	16,799	—	—

*金属屋根材、波形スレート、粘土瓦の面積は換算値。換算値は当協会の推計。

4. 審査事業

(1) 金属屋根工事技士技術審査

平成27年11月28日(土)に札幌、仙台、東京、大阪、福岡の5会場で実施した。

表7 金属屋根工事技士技術審査

地区	会場	申込者数	受験者数	合格者数・率(%)	
札幌	札幌市教育文化会館	1	1	1	100.0
仙台	建設会館	5	5	3	60.0
東京	鉄鋼会館	26	20	18	90.0
大阪	科学技術センター	10	9	7	77.8
福岡	都久志会館	4	4	4	100.0
合計		46	39	33	84.6

5. 施工管理事業

(1) 金属屋根工事技士「更新講習会」の実施

金属屋根工事技士の資格更新を目的とした講習会を5会場で実施した。講習会は、「金属屋根講座」として資格者以外にも公開した。

講習は、『鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き-MSRW2014-』を中心に行い、27年度実施した

木造建築物における折板接合部の確認試験、断熱亜鉛鉄板員会で取得した耐火構造認定等についても説明した。講師は技術委員が担当。

表 8 金属屋根工事技士更新講習会

開催日	地区・会場	対象	申込			出席			講師	
			更新	講座	小計	更新	講座	小計		
2月13日(土)	福岡・朝日ビル	28	25	14	39	25	12	37	風間	野田
2月20日(土)	札幌・自治労会館	21	22	7	29	22	7	29	名和手	鈴木
2月27日(土)	仙台・宮城県建設会館	19	20	3	23	19	2	21	大室	湯本
3月5日(土)	大阪・科技センター	77	74	33	107	73	33	106	風間	宮腰
3月12日(土)	家の光会館	111	79	15	94	78	15	93	工藤	宮腰
		256	220	72	292	217	69	286		

テキスト&配布資料

- ① MSR2014
- ② 屋根を調べる 2016
- ③ 27年度講習会説明資料(接合部耐力試験・木造建築物における折板接合部の確認試験)
- ④ 断熱亜鉛鉄板委員会パンフレット

6. 品質管理事業

(1) 『金属屋根・外壁ハンドブック』(仮称)の制作

協会ではこれまで SSR2007、SSW2011、MSRW2014 等の技術図書を編集・発行してきたが、これらの図書は専門性が高いものとなっていた。このため、初心者・関連業界等を対象とした“入門編”が必要との観点から、『金属屋根・外壁ハンドブック』(仮称)の編集を技術委員会で進めている。発行は 28 年末を予定している。

(2) 木造建築物における折板接合部の確認試験

国交省・林野庁を中心に公共建築物の“木造化”が推進されており、民間の建築物でも木造の増加が予想されることから、折板屋根の木造建築物への適用等について確認試験を実施した。

期間：12月1日～12月15日

試験所：日本建築総合試験所

目的：木質下地に対する折板接合部の試験方法の検討と強度確認

SSR2007 の断熱金具試験準拠：初期強度と熱伸縮を想定した 10,000 回繰り返し後の強度比較

K0920 接合部の確認試験 下地：杉 6 体

H1750 接合部の確認試験 下地：集成材(比重大) 6 体+：集成材(比重小) 6 体

他にタイトフレームビス市販品の単純引張試験 3 種類 各 6 体(市販品の比較)

(3) 『鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSR2014』、『鋼板製外壁構法標準 SSW2011』並びに『鋼板製屋根構法標準 SSR2007』の普及

MSRW2014 について、講習会等で寄せられた質問に関する回答を整理し、「MSRW2014 への質問とその

回答」として機関誌並びにホームページで公開した。

(4) 計算ソフト『屋根を調べる 2016』の作成

『屋根を調べる 2016』を作成した。2016年版では、文字等の修正を行った。
本計算ソフトには以下のものが含まれている。

- ①風圧力算定ソフト ②積雪荷重算定ソフト ③屋根性能計算ソフト ④工事管理報告書作成ソフト
⑤風圧力関連規定解説書(PDF) ⑥屋根ふき材の構造計算解説書(PDF)
屋根性能計算ソフトでは、以下の計算を行うことが出来る。

表 9 屋根性能計算ソフト内容

耐風強度計算	耐積雪強度計算	性能確認計算
折板強度(連続梁)	折板強度(連続梁)	熱貫流率計算
折板強度(単純梁)	折板強度(単純梁)	断熱性能計算(日射吸収)
折板強度(軒先)	折板強度(軒先)	断熱性能計算(放射冷却)
接合部材・接合部耐風強度	接合部材積雪強度	結露計算
タイトフレーム溶接強度	雪止め金具取付間隔	室内温度上昇計算
バラペット下地強度	母屋・垂木強度	屋根材の熱伸縮量計算
雨とい取付金具強度	野地板強度	透過損失計算
母屋・垂木強度		騒音伝達計算
野地板強度		といの排水量計算
ファスナー取付強度		軒先流層高さ計算
横葺き吊子の引抜強度		
縦葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		
横葺きの耐風強度(SSR07 ベース)		

(5) 金属屋根に関する技術情報の提供

会員内外を含めて、金属屋根・外壁の設計・施工にかかわる問合せが増加していることなどに対応するため、機関誌並びにホームページに以下の事項を掲載した。

① 機関誌公表分

- * 光拡散型天窗の電力シミュレーション
- * 最新 非住宅断熱基準と鋼板製外装材
- * 平板ぶき屋根の野地板直留め構法確認試験
- * MSRW2014 への質問とその回答
- * 鋼板製屋根・外壁の維持保全と点検
- * 施工性に優れた天然素材のグラスウール断熱材
- * 建築物の台風被害の軽減に資する基規準類の変遷
- * 我が国最古の銅板屋根の記録
- * 建材用塗装/亜鉛系めっき鋼板の接触腐食
- * 積雪荷重の算定方法が変わります

② ホームページ公表分

- * 折板屋根の軒出長さにおける耐力比較試験
- * 高耐食溶融めっき鋼板 エスジーエル

- * 鋼製下地への留め付け方法確認試験
- * 唐草つかみ込み耐力比較試験
- * 重ね形折板における接合部耐力試験
- * 折板における軒出長さで接合部(タイトフレーム)強度に関する考察
- * ガラスレス仕様「ルメトップライト」による自然採光のご提案
- * 光拡散型天窗の電力シミュレーション

(6) 『建築工事標準仕様書』改定への対応

国交省の『公共建築工事標準仕様書・平成 28 年度版』の改定に技術委員会が対応している。

(7) 国交省・国土総合技術政策総合研究所の「木造住宅の耐久性向上に関わる建物外皮の構造・仕様とその評価に関する共同研究」への参加

本共同研究では、戸建ての木造住宅を対象として、各種の劣化要因を調査・研究し、耐久性を確保するため、建物外皮(屋根、外壁、バルコニー等)の設計・施工方法を示すとともに、各種の構法や材料・部材に対する評価方法を提案することを目的としている。

(8) 日本建築学会『屋根工事標準仕様書 JASS12』改定への対応

(一社)日本建築学会の「屋根工事標準仕様書 JASS12」が約 10 年ぶりに改定されることになり、その作業に技術委員会が対応した。

(9) 積雪後の降雨を想定した構造計算方法(案)に関する対応

平成 26 年 2 月に大雪により大規模な鉄骨造緩傾斜屋根の崩落が発生した。これについて国交省の建築基準整備促進事業の課題として「積雪後の降雨を考慮した積雪荷重の設定に資する検討」が行われているが、その一環として屋根・とこの排雪状況等についてのヒアリングが行われ、事務局・技術委員長が対応した。

10 月 28 日(水) 18:00~20:00 @国交省/建築指導課・建築研究所・学識経験者

12 月 10 日(木) 13:30~15:30 @千葉大学/建築研究所・学識経験者

(10) 平板ぶき屋根の耐火構造における垂木の耐火被覆に関する検討

横葺き屋根等野地板を使用する屋根での耐火構造においては、垂木をケイ酸カルシウム板で耐火被覆する仕様が一般的であるが、他の被覆材料を使用したい等の要望があり、耐火被覆仕様についての検討を進めた。この一環として 9 月 3 日、4 日に建材試験センター・西日本試験所においてロックウール被覆での耐火試験を行った。この試験結果をもとに国交省のコンタクトポイントに「屋根の小屋組被覆の仕様」に関する提案を行った。

(11) 技術研修会の実施

技術委員会並びに断熱亜鉛鉄板委員会・技術分科会合同の技術研修会を実施した。27 年度は 10 月 2 日~3 日に北海道・旭川の北海道立総合研究機構・北方建築総合研究所を訪問し、研究施設の視察と環境研究部メンバーと積雪荷重等について意見交換を行った。

7. 断熱事業

(1) 運営

事業の円滑な執行を図るため、断熱亜鉛鉄板委員会内部に幹事会、技術分科会を設け活動を行って

いる。幹事会、分科会等の開催経過は、以下の通り。

表 10 幹事会・分科会等の開催状況

	総会	幹事会	分科会	説明会、工場審査
4月	22日			
5月		11日	11日	
6月			12日	
7月		24日	1日、28日	31日
8月				7日、21日
9月		25日	1日	
10月			20日	5日、6-7日、8日、13-14日、16日
11月		26日	20日	18日
12月			11日	
1月			27日	
2月		9日	24日	
3月		25日	18日	

今年度中の委員会・会員の異動状況は以下の通り。

表 11 委員会・会員異動状況

会員区分	期首	増加	減少	3月末
正会員	86	2	0	88
賛助会員	8	1	0	9
合計	94	3	0	97

(2) 耐火構造認定の取得

H1733の耐火構造認定取得の準備を進め、3月下旬に試験体の組み立てを行った。

(3) 認定書発行管理体制の整備

① 大臣認定書発行管理システムの開発と運用

大臣認定書の発行と管理を、平成21年4月1日より全面的に電子媒体で行っている。二重折板(3件)の新規認定取得に伴うシステムを開発し、平成26年10月から運用を開始している。

② 認定書の発行業務

委員会の発行する認定書は、従来認定(5件)と二重折板認定(3件)を各々合本として発行し、追加認定(12件)は認定ごと個々に発行している。平成27年4月～平成28年3月までの認定書発行数は、182通である。

(4) 広報活動

本年度は、主に会員企業を対象に認定内容並びに大臣認定書(写し)の発行管理体制の周知に努めた。また、日本金属屋根協会の講習会・機関誌・建築専門誌等を通じた広報活動も行った。

① 認定内容の説明会ならびに ID 取得講習会

会員企業を対象に、二重折板認定・従来認定・追加認定の内容について説明会を実施した。また同時に ID 取得のための認定書発行システムおよび発行手続きの講習会を全国6会場で開催した。講師は技術分科会委員、事務局が担当した。

表 10 講習会実施経過

会 場	開 催 日	出 席 者 数	ID取得者数(内数)
札 幌	8 月 21 日(金)	9 名	2 名
仙 台	8 月 7 日(金)	4 名	1 名
東 京	7 月 31 日(金)	16 名	9 名
名古屋	7 月 31 日(金)	5 名	2 名
大 阪	8 月 7 日(金)	5 名	1 名
福 岡	8 月 21 日(金)	18 名	8 名
合 計		56 名	22 名

② ホームページの運営

平成 21 年 1 月から、協会ホームページと一体化して運営している。平成 27 年 12 月に修正・追記を実施した。

③ 『快適空間創造へのいざない』の増刷

鋼板製(断熱亜鉛鉄板)折板屋根の特性を解説した資料『快適空間創造へのいざない/折板屋根にできること』を平成 28 年 1 月に増刷した。

④ 協会講習会での広報

協会が実施する『金属屋根講座』において委員会で新たに取得した二重折板の耐火構造認定に関する講習を行った。併せて、「快適空間創造へのいざない/折板屋根にできること」の配布も実施した。本年度は、仙台、福岡、札幌、東京、大阪で開催した。

⑤ 日経アーキテクチュア(日経 BP 社)への広告

同誌 2015 年 10 月号・別冊特集『美しい屋根 2015』に委員会が取得している大臣認定一覧と認定書(写し)の発行管理を紹介した。

(5) 品質の維持・向上

認定製品の品質・性能等を自主的に確認するため、以下の事業を実施した。

① 会員工場の技術審査

会員を対象に、委員会の管理する大臣認定に係る保有設備、社内管理状況、断熱材張り等に関する審査を会員7社で実施した。7社すべてが審査に合格した。

② 新入会員の技術審査

新入会員を対象に、折板等成形機・裏張り設備等の保有設備、社内標準(品質管理・設備管理・苦情処理等)の整備状況に関する審査を実施した。併せて、委員会取得・管理の耐火認定内容や認定書発行管理システムに関する説明を行った。

(6) 調査

耐火構造試験等の実施の基礎資料とするため以下の調査を行った。

① 海外情勢の調査

協会主催の海外視察に1名派遣した。

(7) その他

① 「構造方法等の大臣認定材料・構造等に関する製造実績調査」について

(一社)建築性能基準推進協会から、建築行政の適切な情報整備に資するためとして平成 26 年度の製造実績調査依頼があった。これについて委員会は、製造実績を把握していないため、認定書の発行件数を報告することで対応した。

② 他団体との交流

委員会は、断熱亜鉛鉄板に関する各種情報を得ることを目的に、主に次の団体と交流している。

- ・防火材料等関係団体協議会
- ・防火工法推進協議会

8. 広報事業

(1) 機関誌「金属屋根 施工と管理」の発行

機関誌の発行に際しては、定期的に広報委員会を開催し、その充実に努めている。機関誌は会員のほか官公庁・設計事務所・総合工事業者等にも送付している。

平成 27 年度の特集記事は次の通りである。

表 11 機関誌特集記事

号	タイトル	執筆者等
'15年4月号	光拡散型天窗の電力シミュレーション	本間 篤
5月号	最新 非住宅断熱基準と鋼板製外装材(上)	金子優一
6月号	最新 非住宅断熱基準と鋼板製外装材(下)	金子優一
7-8月号	平板ぶき屋根の野地板直留め構法確認試験	技術委員会
9月号	MSRW2014 への質問とその回答	検討委員会・技術委員会
10月号	鋼板製屋根・外壁の維持保全と点検	技術委員会
11月号	施工性に優れた天然素材のグラスウール断熱材	KCC Japan
12月号	建築物の台風被害の軽減に資する基規準類の変遷	喜々津仁密
'16年1月号	我が国最古の銅板屋根の記録	森田喜晴
2月号	建材用塗装/亜鉛系めっき鋼板の接触腐食	石川博司
3月号	積雪荷重の算定方法が変わります	技術委員会

(2) ホームページの運営

協会ホームページは、14年2月1日より正式に公開している。平成 26 年度も、ほぼ2ヶ月に1回程度の

ページで見直しを行った。また、断熱亜鉛鉄板委員会のホームページも更新している。

27年度は、25万件を超えるアクセス数があった(27年度は21万アクセス)。主な内容と更新状況は以下の通り。

表 12 ホームページ

主な内容と更新状況	新たにアップしたページ
① トップページ…掲載写真を随時更新	① MSRW2014 への質問とその回答
② 金属屋根素材の解説…資料を追加	② 折板屋根にできること
③ 主な金属屋根の製品紹介…画面構成を一部変更	③ 0.4mmの超軽量テクノロジー
④ 環境配慮型屋根…資料を追加	
⑤ 屋根ふき材の構造計算…従来通り	
⑥ テクニカルレポート…8件の技術レポートを追加	
⑦ スレート屋根改修のご提案…従来通り	
⑧ 講習会・試験のお知らせ…随時見直し	
⑨ 金属屋根工事技士制度の紹介…従来通り	
⑩ 工事管理報告書…従来通り	
⑪ 出版物案内…紹介図書の追加、修正。	
⑫ 統計…内容更新	
⑬ 施工写真集…掲載写真を追加	
⑭ 用語集…従来通り	
⑮ あの屋根・この屋根…2件の記事を追加	
⑯ 会員名簿…随時見直し	
⑰ 協会の情報公開…平成27年度の内容に更新	

表 13 アクセス数

アクセス数の推移(14/2～27/12)		
	アクセス数	ヒット数
14/2～27/3	1,480,464	77,141,221
27/4～28/3	253,233	16,717,492
計	1,733,697	93,858,713

(3) 建築系工業高校への広報活動

平成19年9月号より金属屋根に対する理解促進等を図るため、全国の建築系学科を有する工業高校への機関誌の配布を行っている。

(4) 書籍等の頒布

以下の書籍等について会員及び一般向けに頒布を行った。

- ① 鋼板製屋根・外壁の設計・施工・保全の手引き MSRW2014
- ② 計算ソフト「屋根を調べる2015」
- ③ 『金属屋根の施工と管理』—改訂4版—
- ④ 鋼板製外壁構法標準 SSW2011
- ⑤ 鋼板製屋根構法標準 SSR2007
- ⑥ 素材からみる金属屋根と外壁
- ⑦ 改訂・鋼板屋根構法マニュアル
- ⑧ 風と金属屋根—改訂版—
- ⑨ 屋根改修工事の手引き
- ⑩

9. その他

(1) 国土交通大臣顕彰「優秀施工者」(建設マスター)受彰

建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事している方の中から、特に優秀な技能、技術を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をしている方を、国土交通大臣が顕彰する、平成 27 年度優秀施工者に 3 氏が選ばれた。当会としての受彰者は 53 人となった。また、今年度から創設されたジュニアマスターに 2 名が選ばれた

【建設マスター】

高橋 良信 有限会社鹿野板金工業 (宮城)
堀 浩尚 有限会社吉岡板金工業所(富山)
山本 伸一 有限会社山本板金工業(宮城県)

【ジュニアマスター】

谷 正一 有限会社谷板金工業 (北海道)
中村 友行 株式会社サンユウ(愛知)

(2) 会員企業への講師派遣

会員企業からの要請により、社内講習会等の講師の派遣を行った。

以 上